

2月定例会議会特集

新年度予算（一般会計）審査

今週の市議団ニュースでは、新年度の一般会計予算案の主な審査内容についてお知らせします。

総務費（庁舎管理、財産管理、防災、徴税、選挙等に係る経費です）

職員は、総務課が担う業務の一つです。近年、全国のあらゆる職場で、ストレスが心身に影響を及ぼし、休職、退職に至る労働者が増加傾向にあり、その対策の重要性が指摘されています。

昨年度末時点で根室市の職員数は定数を満たしておらず、その分、現職にかかる負担は大きくならざるを得ません。鈴木議員は、市職員の皆さんが安心して働き続けるために、ストレスチェックの受診率の向上と、受診結果に対する、さらなる確な対応を求めました。

民生費（障がい者福祉、高齢者福祉、児童・母子

仕事を依頼する方にとっても、また、請け負う高齢者の皆さんにとっても大切な事業と言えますが、近年、参加者が減少しているというのが実態です。鈴木議員は、継続性のある業務が人員不足によつて途切れることのないように取り組まれるよう求めました。

衛生費（保健衛生、ごみ処理等に係る経費です）

老朽化したじん芥処理施設については、新築に向けてスタートしたところ。一方、1999年に供用開始されたごみ埋立処理場については、当初、2014年で埋立期間が終了する予定でしたが、ごみの分別方法が大きく変わったこと、さらには2012年に前処理破砕施設が稼働したことから、見直しとしては、2030年ころまでの延命が見込まれています。

ただ、新しい施設を造るとなると莫大な費用が掛かることから、鈴木議員は、さらなる延命措置を図ると同時に、新施設

の計画については早めに着手することを求めました。

農林水産業費（当市の基幹産業に係る経費です）

鈴木議員は、農業・林業における人材確保対策について質疑しました。

また、コロナ禍の時に、根室出身の大学生等にも、「コロナでアルバイトもままならないだろ」等の理由で根室の水産物を送り届けた「根室の旨いをお届け隊」事業が新年度復活することについて、その狙いなどを質疑しました。

コロナ禍の時には当該学生たちが大変好評だったことはもちろん、受け取ったことで根室の良さを再認識し、地元就職された方もいることから、意義のある事業であると考えます。

教育費（学校教育、社会教育など、根室市の教育全般に係る経費です）

ICT教育環境整備事業として、タブレット端

末更新経費などが新年度予算に計上されています。鈴木議員は、OECの調査で、かつて常にトップクラスにあったフィンランドの児童生徒の学力が最近低下傾向にあること、その要因が「教育のデジタル化」にあるとして、教科書などを紙ベースに戻しているという報道を紹介し、教育のデジタル化に「前のめり」になっている日本の現状について、市教委の見解を求めました。

波岸教育長は、手指を動かすこと、手指で物に触れることが脳の発達に大変重要であると述べ、デジタル機器を活用しつつも、従来型（アナログ型）の教育・学習も重要であるとの旨、答弁しました。

鈴木議員はまた、不登校の児童・生徒が増加傾向にあることから、ふれあいクラブ「弥生」の体制強化や、歯舞湿原の保全・活用のあり方、「北国讃歌」を後世に伝えていくための施策等についても質疑を行いました。